

# 津山中央病院 65 年誌



## 病院理念

私たち津山慈風会は、  
地域の皆さんにやさしく寄り添います。



## 基本方針

- お断りしない救急に務める
- 最先端医療を提供する
- 地域医療機関との連携を強化する
- 地域に貢献する活動を推進する
- 教育、人材育成に傾注する
- 健全な経営に務める



# 目次



## 3 理念・基本方針

## 4 ご挨拶

### ○ 沿革年表 ～60年

### ○ 5年間のあゆみ POWER UP 5について

### ○ 沿革年表 ～65年

### ○ 診療実績

### ○ 病院概要

守るべきは守り、

攻めるべきは攻める！

一般財団法人津山慈風会  
理事長

藤木 茂篤  
Shigeatsu Fujiki

昭和 28 年 10 月に津山慈風会が産声をあげて以来、65 周年を迎えることができ、65 周年記念誌を上梓できますことは望外の喜びであります。従前よりご協力、ご支援いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

私が津山中央病院院長に就任しました際、「病院理念」「基本方針」「職員行動規範」を刷新しましたことは 60 年誌に詳述しましたが、病院理念と並んで、法人の推進力となるべく「2020 年までに日本に誇れる医療サービス空間を構築する」というビジョン（p 46）を高らかに謳い、法人職員には岡山県北ではなく「日本」を意識させ、日本で有数の病院をめざそうと職員一丸となり邁進して参りました。

そのビジョンも、2020 年という一つの区切りを迎えようとしています。この 5 年を振り返ってみますと、「Power Up 5」（浮田会長より詳しく紹介）という法人の今後を左右する事業を決断し、展開してまいりました。令和元年 8 月に完了し、津山中央病院は大きな変貌を遂げることができました。その中でも「陽子線」事業は、中国四国地区で初の試みであり、津山中央病院の名前を広く知っていただくことに多大なる貢献してくれました。「いい治療に国境はない」という考えのもと、医療インバウンドにも積極的に取り組み、海外特に中国（China）からの患者さんも徐々に増え、津山慈風会のみならず地元への貢献にも役立っています。



また、新病棟は、地域完結型の医療を目指して最先端の医療提供を死守するため、ロボット（ダヴィンチ）、ハイブリッド、無菌手術室などを充実させ、super ICUを新設し、地域住民に最適な医療を提供できる体制を整えております。ロボット支援手術は前立腺がんの手術が予想外に増加しておりますし、最近では呼吸器領域も積極的に利用するという好循環にあります。また、看護部門には患者さんへのベッドサイドでのサービス提供目的のユカリアタッチをさらに機能をアップさせ、本邦初の試みとしてバイタルサインのベッドサイドでのワンタッチ入力を可能にし、看護師の業務改善に大きく貢献し、本館を含めて全病棟に配置しました。

本稿では詳細を割愛させていただきますが、津山中央記念病院では地域包括ケア病床の導入、津山中央クリニックでの大胆なリハビリの統合と整備、さらに健診センターにおけるインバウンドの導入など、津山慈風会の諸事業所の充実もビジョンの「医療サービス空間の構築」に欠かせず、今後も力を注いでいく所存です。

当法人の目指すところは、普遍です。まず、病院移転より貫いて参りました岡山県北住民の安心と安全の拠り所となる救急診療の安定した提供、そして、岡山県北住民が他所に行くことなく県北、この津山の地で最先端の医療を受けることができるよう体制を充実させること、最後に、津山慈風会が地域とともに共存し続けることができることです。そしてそこには持続する発展が必要です。守るべきは守り、攻めるべきは躊躇なく攻める姿勢を持ちつづけ、県北医療の充実のため挑戦し続けることをお誓い申し上げます。

これからも患者さんのため、地域のため、職員のために、より高みを目指して、新たに整備した医療機器を最大限活用することで皆さんにお返ししたいと思っています。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げ、措辞ではございますがご挨拶とさせていただきます。



# 津山中央病院

## 新しいステージへの出発に向けて

一般財団法人津山慈風会  
会長

浮田 芳典

Yoshinori Ukita

当法人は、昭和28年10月に故牧山堅一先生の寄付行為により、財団法人津山慈風会が設立され、昭和29年7月に「総合病院 津山中央病院」が津山市二階町の地に開設されて、今年で65周年を迎えることができました。これも一重に諸先輩、職員の皆様方のご努力、並びに地域及び行政のご支援の賜物と感謝すると同時に、この誌面をお借りして改めて御礼申し上げます。

今日に至る迄には幾多の諸問題を乗り越え、平成9年12月国立療養所津山病院の経営移譲を受け、平成11年12月には現在の地に、念願の新病院移転を果たす事ができました。そして岡山県北地域の保健・医療・福祉の向上に寄与し、地域の皆さまの生命と健康を守ると云う使命のもと、各種施設の整備を進めてまいりました。

急性期医療を担う救命救急センターを併設した津山中央病院を核とし、回復期・慢性期医療を担う津山中央記念病院、津山中央クリニック、健康管理増進の健診センター、健康増進センター、介護在宅医療の訪問看護ステーション、居宅介護事業所、有料老人ホーム、デイサービス、そして育英事業として、津山中央看護専門学校、並びに奨学金制度等、その充実に努めてまいりました。

更に平成26年4月より、将来を展望した再整備5カ年計画がスタートしました。



下記の5つの頭文字に因み、そのプロジェクト名を「POWER UP 5」としました。

Proton	陽子線治療センター
Operating Room	手術室
Ward	病棟
Energy	エネルギー棟
Rehabilitation	リハビリテーション

元々は3ヵ年計画にしておりましたが、構想が進むにつれ規模が拡大して、5ヵ年計画に改めました。そしてこの令和元年に5年の歳月をかけて計画を完遂することが出来ました。

「人生はマラソン」であるとよく云われますが、「企業（津山慈風会）は駅伝」であると思います。各区間を担う者が次世代へと、途中で途切れる事なくタスキを繋いで行く、ゴールの無い駅伝であると思います。二階町での旧津山中央病院時代を第一世代とすれば、川崎への移転後が第二世代、そして再整備計画が完了し、いよいよ次の第三世代が始まったところであります。この新しいステージに「医療というタスキ」をしっかり繋いで行くことが我々の使命であると思います。

これからも医療福祉の発展の為、津山慈風会で一致団結して取り組む所存であります。今後とも、皆様方のより一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



# 職員と地域に選ばれる

## 病院を目指して

一般財団法人津山慈風会

津山中央病院

病院長

林 同輔

Doufu Hayashi

津山中央病院創立 60 周年記念式典を行って  
から早いもので 5 年の月日が流れました。この間に  
病院の発展はさらに加速度を増し、「POWER UP  
5」と銘打った一連の事業も完結を迎え、岡山県  
北に一大医療拠点基地が完成いたしました。事  
業の目玉となる「がん陽子線治療センター」も次第  
に実績を重ねており、中国を中心とした医療インバ  
ウンドも順調に広がってきました。また、手術用ロボッ  
ト「ダ・ヴィンチ」専用の広い手術室や経カテーテル  
的大動脈弁留置術（TAVI）を想定したハイブリ  
ッド手術室等を整備し、バイブレーション血管撮影室  
も 2 室新設しました。これらの最新の医療設備を  
活用し、岡山県北に最先端の医療を提供できる  
ことを願ってやみません。

しかし病院外に目を向けてみますと、岡山県北は  
次第に過疎化が進んでいる地域であり、少子高  
齢化の波もいち早く押し寄せて来ています。今後  
医療需要の減少や働き手の減少が懸念されます  
が、岡山県北の急性期医療を守るため、これを支  
える医療スタッフの確保に努めることが当院



に課せられた使命であると考えられます。「人は城、人は石垣」とは武田信玄の有名な言葉ですが、どのような立派な城（建物・設備）も、それを使う「人」がいなければ機能せず、「人」こそが大切な財産であることを表した格言です。「POWER UP 5」で築き上げた強固な「城」を有効に活用するためにも、今後は「人」の確保に注力し取り組んで行く必要があると思います。

当院は昨今の「働き方改革」にいち早く取り組んできたと自負していますが、まだまだ改善すべき点は多々あるように思われます。今後も院内の労働環境整備を行い「働きやすい」「働きがいのある」病院作りを推進していきたいと思えます。当院を取り巻く医療情勢は厳しいものが続くと思われそうですが、皆で協力して難局を乗り越えていきたいものです。「職員に選ばれる病院」となり、ひいては「地域の人たち選ばれる病院」となって 70 周年に繋がっていくことを強く願っています。



# 記念病院・その後の歩み

一般財団法人津山慈風会  
津山中央記念病院  
院長

和仁 孝夫  
Takao Wani

2014年の60周年誌発行からはや6年が経ちました。当時私は中央病院から記念病院に移動してまだ間もない時期でしたが、今回は神石プレストなどでのプロジェクト(PJ)を通して記念病院がその間に行なってきた各種試み・歩みを記載し65周年誌のご挨拶に代えさせていただきます。

2013年当時の記念病院は中央病院との連携が必ずしもスムーズでなく、入退院患者動態は低調で平均在院日数も長期化し稼働率も低迷している状況でした。このためまず中央病院グループ内の連携強化、特に中央病院との間でスムーズな患者の流れを作るため中央病院からの患者の積極的な受け入れに取り組みました。また一般の医療機関からの紹介患者や外来受診患者で入院を要する患者も積極的に受け入れるよう努めました。その結果稼働率のアップ【一病棟稼働率 20%アップ】や入院基本料のアップ【一病棟入院基本料:亜急性病棟→急性期一般病棟・13対1(2013年)→10対1(2014年)】によりまずまずの成果を得る事ができ収益面でもかなり改善しました。また2014年の堀家英之先生の着任により腎臓透析センターの充実を図りました。堀家先生の尽力により現在名実共に県北の腎臓・透析関連の中心センターとして地域の医療機関に信頼される存在となりました。次に療養型病棟の強化に取り組みました、これは介護療養病棟廃止に伴い2018年には25対1医療療養病棟が廃止になるとの指針が出ていたことから2015年当時



まだ 25 対 1 の看護基準で運用していた療養型病棟(二病棟)を 20 対 1 へ早急に変更する必要があったからです。当初二年計画として取り組みましたが幸い一年で達成することができました。次に慈風会グループの連携強化の意味もあり、それまで隣接していた津山中央クリニックと別々に運営していたリハビリ部門の効率的な運用に取り組みました。結果、中央クリニックの宮本亨院長の協力のもとクリニックのリハビリ部門を記念病院へ集約統合しリハビリ基準のアップなど効率的な運営が可能となりました。さらに 2018 年には一病棟の一部病床の地域包括ケア病床変更に取り組み、2019 年 3 月に 8 床を地ケア病床に転換運用を開始しました。これは将来の地域医療構想を見据えての試みでしたが、これにより一病棟全体の単価(日当点)もアップし経営面でもかなり有益な結果を得ることができました。そして現在は看護師不足に伴う中央病院の厳しい病床事情などを踏まえ、改めて二階町(記念病院)と川崎(中央病院)との連携強化推進に取り組んでいます。

津山慈風会では中央病院を中心にグループ全体として 2020 年までに「日本に誇れる医療サービス空間の構築」とのビジョンのもと、グループ一丸となってその実現に取り組んでまいりましたが、記念病院もその一員としてその後の更なる stage up したビジョンの達成に貢献してまいります。



# 一階町グループの役割

一般財団法人津山慈風会  
津山中央クリニック  
院長

宮本 亨  
Toru Miyamoto

津山中央クリニックは、平成 26 年 4 月からは整形外科、皮膚科、リハビリテーション科を中心に、小児科、耳鼻科、眼科、外科の 7 診療科で津山中央病院、津山中央記念病院と相互に補完をしながら外来診療を中心に行っていました。その後、担当医の諸事情等もあり、外科、耳鼻科の診療を終了することになりました。一方、リハビリテーション科は、津山中央病院の言語療法が平成 27 年 11 月から移動し開始をしました。小児科も平日の午前・午後も診療が始まり充実してきました。ただ、施設等の状況もありリハビリテーション科は基本的には平成 29 年に津山中央記念病院に移動し、そちらで通院所リハビリテーションは継続することになりました。現在クリニックでは外来通所リハビリテーションは作業療法のみを行っています。運動療法等必要な患者さんは、津山中央記念病院に紹介して、継続してリハビリテーションを行っています。また、訪問リハビリテーションを平成 29 年から開始、現在小児を中心に医療保険対象の患者を中心に行っています。

眼科は非常勤医師等の配置の問題もあり、平成 28 年に津山中央病院に集約されることになりました。現在、津山中央クリニックでは整形外科、小児科、皮膚科の 3 診療科のみの診療になりました。このため医療スタッフなどの適切配置の意味も含め、外来診療場所を全て津山中央クリニック 1 階で行うことになり現在まで続いています。



このように津山中央クリニックは、この5年間でも診療医の高齢化、診療科の医師の偏在等の影響を直接的に受け、外来医療の縮小化は避けて通れない状況でした。今後もこの状況が簡単に解決されるとは思えませんが、比較的待ち時間が短いや、広い外来スペースなどの特徴もあり小児科、皮膚科の患者数は徐々にではありますが増えてきています。今後も津山中央病院との連携を大切に、さらにお互いに補完し合いさらに充実していきたいと思えます。

また60年史の今後の展望には、地方都市において中心市街地の過疎化の問題をあげました。現在も相変わらず、周辺の商店街では閉店した店舗が相次ぎシャッターが一日中降りている店舗がさらに多くなってきています。その中で二階町の地にある津山中央記念病院、津山中央クリニック、アーバンライフ二階町、ナイスデイ二階町や、津山中央訪問看護ステーションからなる津山慈風会グループの二階町グループはとても有機的につながり重点的な役割をこなしております。これらのグループを大切にして、連携を深め少しでも地域医療に貢献できるよう心がけていきたいと思えますので宜しくお願いいたします。





# 沿革年表 ~60年



# 沿革

昭和 28 年 10 月 財団法人牧山慈風会 設立  
 昭和 29 年 4 月 財団法人津山慈風会と改称  
 昭和 29 年 7 月 津山中央病院（二階町）開院

昭和 33 年 4 月 津山中央准看護婦養成所 開設  
 昭和 35 年 4 月 津山中央高等看護学院 開院  
 昭和 35 年 11 月 総合病院津山中央病院として認可  
 昭和 40 年 3 月 救急告示病院認可  
 昭和 45 年 7 月 病床数 369 床へ増床  
 昭和 54 年 南館竣工

昭和 55 年 2 月 二次救急医療体制発足  
 平成 1 年 4 月 院内学級開校（長期入院児童）  
 平成 6 年 10 月 看護体制 2.5 : 1 認可  
 平成 7 年 10 月 特別管理給食開始  
 平成 9 年 1 月 災害拠点病院  
 （地域災害医療センター）指定

平成 9 年 12 月 国立療養所津山病院の経営移譲を受け川崎に東分院 250 床を開院  
 一般病床 110 床  
 療養型病床 90 床  
 結核病床 50 床

平成 10 年 4 月 へき地医療支援病院指定  
 平成 11 年 4 月 第二種感染症指定医療機関指定  
 平成 11 年 12 月 東分院から津山中央病院へ名称変更  
 （津山中央病院を津山中央記念病院へ）



『開院当初』



『南館完成 鶴山公園より写す』



『災害拠点病院 救護班 研修会』



『国立療養所津山病院 航空写真』



- ・二階町の機能を合併し、529床に増床
 

一般	369床
救命救急	20床
療養型	90床
結核	50床



『移転当初の津山中央病院 航空写真』

- ・電子カルテスタート
- ・ヘリポート開設
- ・津山中央訪問看護ステーション
- ・津山中央在宅介護支援センター
- ・津山中央在宅介護支援センター
- ・指定居宅介護支援事業所 を併設



『電子カルテ』



『ヘリポート』

平成 11 年 12 月 2000 年対応

平成 12 年 2 月 救命救急センターとして厚生省認可、  
県より設置要請  
(ICU6床、CCU2床、HCU12床)

平成 12 年 3 月 結核病床を 38 床へ減床、伝染病隔離病舎  
の廃止に伴い感染症病床 8 床新設総病床数  
は 525 床となる



『ICU』

平成 12 年 3 月 津山中央看護専門学校を川崎に移転する



『津山中央看護専門学校』

平成 12 年 10 月 津山中央クリニック開設



『津山中央クリニック』

平成 14 年 5 月 津山中央記念病院新築オープン



『津山中央記念病院』

平成 14 年 11 月 病院機能評価認定取得



平成 15 年 2 月 エイズ治療拠点病院指定

平成 15 年 4 月 臨床研修指定病院となる



『平成 16 年度研修医』



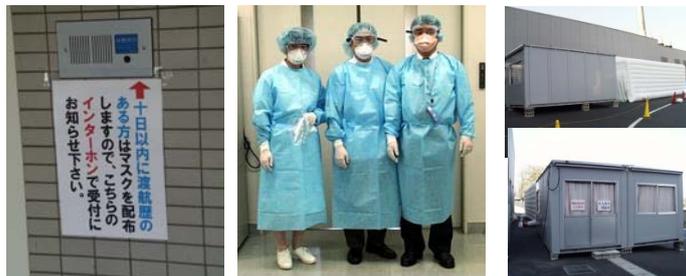
『平成 17 年度研修医』

平成 15 年 5 月 放射線治療装置リニアック稼働開始



『リニアック』

平成 16 年 3 月 SARS 対応



平成 16 年 4 月 第一期生研修医 研修開始

平成 16 年 4 月 北病棟を改修しN1, N2, N3 病棟オープン  
N1 は療養から一般病床へ

平成 16 年 5 月 健康管理センターオープン



3 階 津山慈風会記念ホール



2 階 健診センター



1 階 医療情報プラザ



平成 16 年 12 月 ISO 14001 認証取得

『ISO キックオフ』



平成 16 年 12 月 AED 設置

平成 17 年 1 月 地域がん診療拠点病院指定



『地域がん診療拠点病院指定記念講演』

平成 17 年 2 月 療養病床を一般病床に変更、  
一般病床 487 床  
結核病床 30 床  
感染症病床 8 床 となる。

平成 17 年 4 月 N2 病棟を亜急性期病床に変更

平成 17 年 5 月 救急救命士気管挿管病院実習受け入れ



『救急救命士気管挿管病院実習 修了者第1号』 『実習協力者へ感謝状贈呈式』 『救急救命士気管挿管病院実習 風景』

平成 17 年 9 月 ドクターカー運用開始



『ホトラインより出場要請を受ける』

平成17年10月 PET/CTセンターオープン



『PET/CTセンター 入口』



『PET/CT』

平成17年11月 研修宿泊棟完成



『研修宿泊棟』



平成18年12月 感染症外来開設



平成18年12月 NICU（新生児集中治療室）7床設置  
平成19年03月 医療被曝低減施設指定



平成 20 年 07 月 DPC 算定開始  
平成 20 年 10 月 小児救急拠点病院指定  
平成 21 年 05 月 アーバンライフ二階町、ナイスデイ二階町開設



平成 21 年 06 月 新看護基準 7:1 取得  
平成 21 年 06 月 居宅介護、訪問看護 S T 二階町に移転



『居宅介護施設、訪問看護ステーション』

平成 22 年 03 月 職員宿舎アーク高野山西オープン



『アーク高野山西』

平成 23 年 04 月 医療研修センターオープン  
平成 24 年 04 月 入退院支援センターオープン



平成 24 年 07 月 救命救急センターHCU 増床



平成 24 年 09 月 新外来棟での診察開始



『新外来棟』



『新外来棟 診察ブース』

平成 25 年 04 月 化学療法センターオープン



『化学療法センター』



# 5年間のあゆみ

POWER UP 5について  
沿革年表 ~65年



Proton  
Operation room  
Ward  
Energy room  
Rehabilitation  
Utility  
Parking

# POWER UP 5

岡山大学・津山中央病院共同運用

## がん陽子線治療センター



「患者さんに低侵襲で、そして切らずにがんを治療することができれば、これに勝る福音はない」という思いから始まったのが、津山中央病院のがん陽子線治療センターである。2016年3月に中国・四国地区で初めての粒子線治療施設として開設され、岡山大学病院と共同運用で同年4月28日から治療が開始された。

治療開始に先立ち2015年12月、岡山大学病院に「陽子線治療学講座」を設置。2016年1月に岡山大学に放射線治療・陽子線治療外来、津山中央病院に陽子線外来、さらに2017年10月には香川県立中央病院にも陽子線治療外来が設置された。陽子線治療はX線を用いた放射線治療と比べて、周辺の正常な臓器への影響が少ないので、副作用（合併症）が非常に少ないことが特徴の安全ながん治療法といえる。共同運用にいたる過程について、岡山大学病院のホームページには「今後、がん患者の半数程度がこうした放射線治療を受けることが予想され、本学でも導入を検討していたところ、津山中央病院から陽子線治療センター開設への協力要請があり、本学と同病院が共同運用することになりました」とある。

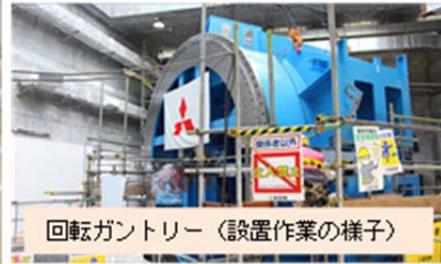
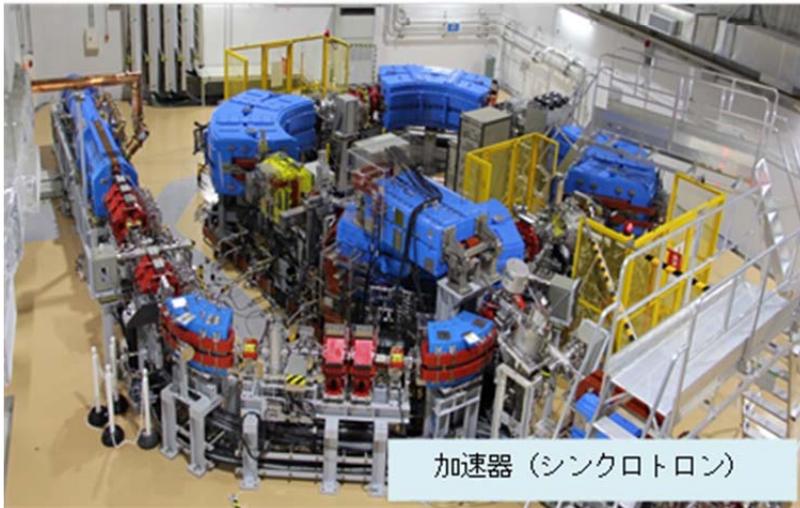
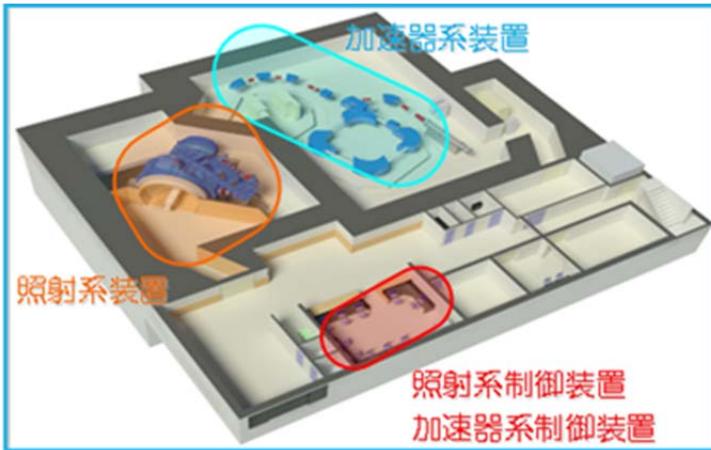


## 5年間のあゆみ POWER UP 5 について

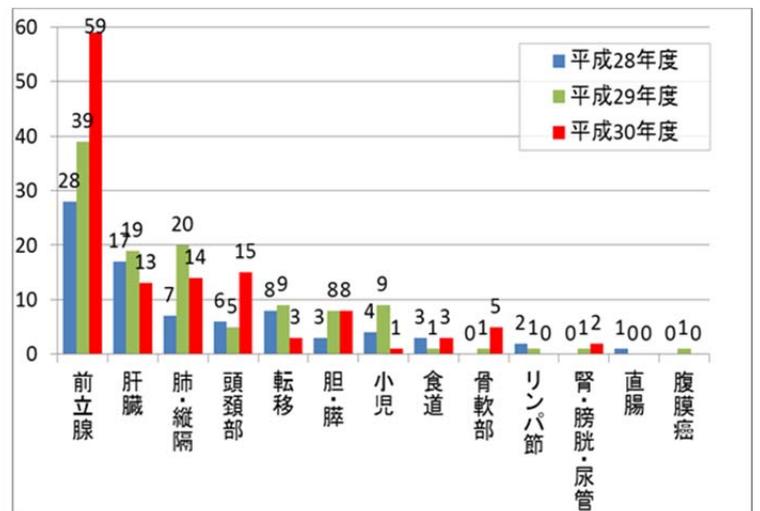
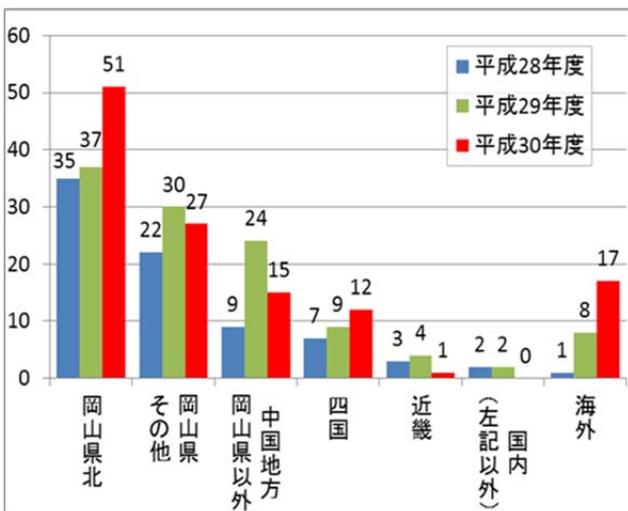
2020年の時点でも、中国・四国地区で唯一の粒子線治療施設である。また総合病院として粒子線治療を行っているのは、京都より西の西日本では当院が唯一である。総合病院の強みを生かして抗がん剤併用の陽子線治療を行っている。がん患者の救急を含む総合的な全身管理が可能な施設である。

2016年10月に国際医療支援センターを設置し、常勤の中国人医師が勤務していることもあり、2018年度の実績の1割強が海外からの患者が占めている。

### 【施設概要】



### 【治療実績】



Proton  
Operation room  
Ward  
Energy room  
Rehabilitation  
Utility  
Parking

POWER UP 5

## 新館（N館） 第Ⅰ期工事

新病棟・SICU・リハビリテーションセンター・医局



1999年12月に津山市中心部より、市東部 川崎の地に移転して20年近く経ち、疾病構成の変化や医療技術の革新など、医療を取り巻く環境は大きく変化した。また国立療養所津山病院の委譲を受けた病棟（旧N病棟・2号館）も老朽化が進み手狭になったこともあり、本館を含めて機能再編のための新館構想が浮上した。これが新館（N館）の立ち上げの1年半後の手術室拡張工事（第Ⅱ期工事）にまで繋がる一大プロジェクトとなった。2017年3月に医局棟である2号館を解体するところから工事が始まり、新医局が完成するまでの1年間を仮設棟でしのぐことになった。2018年2月に第Ⅰ期工事が完了し、病棟、SICU、リハビリテーションセンター、医局、図書室、更衣室が出来上がった。3月末に病棟の引越しを行い、4月より運用を開始した。

第Ⅰ期工事で完成した新館（N館）の特徴のひとつは4床の集中治療室である。将来を見据えて最大で12床稼働できる規模になっている。一番大きな部屋で31.91㎡、個室4床平均でも28.30㎡で日本集中治療医学会が推奨している1床あたり25㎡をクリアし、特定集中治療室管理料2の施設基準である所謂スーパーICU（SICU）である。4F病棟には整形外科（東西合わせて79床）を5F病棟には心臓血管センター（60床）を配置した。どちらも広くたいへんゆったりとした構造になっており、リハビリ訓練スペースも備えている。特に5F病棟には100㎡の広さを持つ心臓リハビリテーション室を併設した。病室もスペースを十分に確保し、プライバシーにも配慮した構造になっている。働き方改革の一端として、看護支援システム「ユカリアタッチ」を導入した。①電子カルテとの連携 ②ピクトグラムを使った患者向けインフォメーション機能 ③バイタル情報（体温、血圧、SPO2、血糖）の自動入力 の3つの機能をすべて持ち合わせたものは当院が本邦初である。3F病棟には将来、緩和ケア病床を配置できるよう対応

## 5年間のあゆみ POWER UP 5について

した構造としている。また第2種感染症指定医療機関として、5F病棟60床のうち8床について感染症病床を配置している。3F病棟に10床配置した結核病床とともに、感染症対応といういわば公的役割にも対応している。リハビリテーションセンター、医局、職員更衣室、図書室も従来よりも拡張した形で配置しており、第I期工事が竣工し、津山中央病院は一回り大きな規模に進化したといえる。

### 【施設概要】

5 F	1 病棟	6 0 床 (心臓血管センター・感染症病棟)
4 F	東西 2 病棟	7 9 床 (整形外科)
3 F	結核病床 1 0 床、緩和ケア病床 (将来対応)、医局○人対応	
2 F	集中治療室 (S I C U)	4 床 (1 2 床まで対応可能)
1 F	機械室	



※上段は本館とN館を東側から撮影  
下段はN館を西側から撮影



※上段は2F S I C U 中段は整形外科病棟  
下段は心臓血管センター

### 【看護支援システム「ユカリアタッチ」】



Proton  
Operation room  
Ward  
Energy room  
Rehabilitation  
Utility  
Parking

## POWER UP 5

### エネルギー棟拡大、駐車場拡張



#### エネルギー棟拡大、駐車場拡張

2014年に着工した第2エネルギー棟が2015年8月に竣工した。津山中央病院の規模拡大に伴い、専用の送電線を引き込み特別高圧電力にした。契約電力は2800kwと最大電気容量を拡大している。特に陽子線治療施設の電気使用量が大きく伸びるため、がん陽子線治療センターの竣工に先立って対応することが必要だった。また災害等非常時対応として発電機を増設した。通常時の6割の電力を確保するため、発電量は従来の600kwhから1,600kwhに拡大した。

職員数が年々増加するため駐車場の拡張も行った。2019年度にはほぼ終了した。

Proton  
Operation room  
Ward  
Energy room  
Rehabilitation  
Utility  
Parking

## POWER UP 5

### フィットネス&スパ カルヴァータ、 国際医療支援センター、ひまわり保育園 等



#### フィットネス&スパ カルヴァータ

2014年5月にはフィットネス&スパ カルヴァータがグランドオープンした。県北の健康増進の拠点とするべく津山中央病院に隣接する施設が出来上がった。天然温泉を利用したスパが特徴である。この施設の完成で早期発見（健診センター）～医療（津山中央病院）という流れの上流に健康増進という分野が加わった。二階町のグループ事業所を含めると介護・在宅への流れも整い、当財団のビジョンである「日本に誇れる医療空間の構築」にまた一歩近づいたことになる。

## 5年間のあゆみ POWER UP 5について



### 国際医療支援センター

年々増加する在留外国人や医療インバウンドに対応するため、2017年4月に国際医療支援センターを開設した。中国人医師、通訳など4人の職員で主に中国人の健診、陽子線治療の受入れを本格化した。JMIP※1、JIH※2など海外渡航者の受け入れについての認証・推奨を受けることもでき、医療インバウンドの受入れ体制がますます整った。

JMIP※1 外国人患者受入れ医療機関認証制度

JIH※2 ジャパン インターナショナル ホスピタルズ



### ひまわり保育園

旧国立療養所の建屋に設置していた院内保育園を新築移設した。2018年4月に着工、2019年3月に竣工し、同年4月から認可保育園として運用を開始した。待たなしに対応が迫られる働き方改革や2040年問題である生産労働人口減少に対応するべく整備した



### ファミリーマート

療養環境の充実、職員のためのアメニティー向上を目的に、院内の売店をコンビニエンスストアにした。2020年10月OPEN、8:00~20:00の営業。

## 手術室拡張 第Ⅱ期工事

新手術室・新中央材料室・新血管撮影室 等



津山中央病院設立66周年目の事業となるが、POWER UP 5の総仕上げとなる手術室拡張工事など新館（N館）の第Ⅱ期工事についても触れておくこととする。

2018年4月に新病棟の運用を開始し、病床を確保した上で、旧国立療養所から引き継いだ旧N病棟を解体するところから工事が始まった。同年8月に第Ⅱ期工事を着工し、2019年8月に竣工した。同年9月中にハイブリッドOR、血管撮影装置、各種洗浄滅菌装置など高額大型機器をはじめとする多くの医療機器を搬入、調整作業を行い、同年10月から運用を開始した。

### 新手術室

増加する手術件数に対応するため、また高度化していく手術の技術に対応するため、高規格手術室を4室増設し、合計11室の手術室を擁する手術センターとした（※既存8室のうち小手術用の1部屋は廃止）。

room 8はハイブリッド手術室で広さ99.67㎡。1999年に開設した心臓血管外科手術室が手狭になったため従来の2倍程度の面積の手術室とした。また、これまではステントグラフト挿入術（経カテーテル動脈瘤治療）を外科用イメージ（Cアーム）で行っていたが、シーメンス社製のハイブリッドORを導入し、より安全で確実な手技を行うことが可能になった。心臓血管外科のみならず、脳神経外科、整形外科の領域にも対応できる。近い将来にTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）を行うことが出来るよう設計した。

room 9は無菌手術室で広さ53.50㎡。空気清浄度はクラス1000。増加する関節手術に対応するため無菌手術室を増設した。

room 10は汎用手術室で広さ53.60㎡。外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科など幅広い領域の手術に対応できる。

## 5年間のあゆみ POWER UP 5について

room 11 はダヴィンチ用手術室。広さ 72.70 m<sup>2</sup>の手術室。手術支援ロボット ダヴィンチが使用できる広い手術室とした。泌尿器科領域以外の手術にも対応可能。



高機能化した手術センターを支える機能として、全室に術野監視カメラを設置し、画像管理システムと接続している。また麻酔管理システムも新たに導入した。麻酔管理室は移転・拡張し、監視モニターも充実させて、麻酔科医が手術を管理しやすい体制を作り上げた。2020年度以降には小手術用の room 8 を廃止

して、手術管理室を拡張し、手術センターの管理体制をさらに充実させていく予定。中央材料室も拡張し、手術室を支える機能がますます充実した。

今回の手術室の拡張工事では、単に床面積を広げるだけではなく、ハイブリッドOR、ダヴィンチといった高度医療機器も導入し、従来、県南でないとできなかった手術が県北で受けることができるようになった。県北医療の『最後の砦』として、ますます機能を充実することができたものとする。

## 血管撮影室

血管内治療の領域は専門医をはじめとするスタッフが充実することで件数が増加。アブレーション治療（不整脈）、血栓回収療法（脳梗塞）など本館開設時点（1999年12月）では行っていなかった手技も始まった。2019年には一次脳卒中センターにも認定され脳梗塞の治療の件数が大幅に増加している。また血管撮影装置も撮影方向が一方のみのシングルプレーンから二方向のバイプレーンに主流がうつり大型化した。これらのことから本館の血管撮影室エリアでは手狭になったので、新館（N館）にバイプレーン対応の血管撮影室を2室新設することにした。新しい血管撮影室は主に心筋梗塞、不整脈、脳梗塞など心臓、頭部の検査、治療を中心に使用する。従来の血管撮影室エリアにある比較的新しいシングルプレーンの装置については、主に肝動脈化学塞栓術(TACE)、腹部の血管内治療に使用し、領域による機能分けを行った。心臓カテーテル室の跡地利用についてはCT室の拡張を検討。救急外来に近い場所で画像検査の機能を充実させてより救命率を向上させることを考えている。この度の血管内治療エリアの再編成により、心疾患、脳血管疾患といった日本の死亡件数の上位を占める疾患に対応する体制をより充実することができ、地域の皆さんが安心、安全に暮らすために必要な最も重要なセーフティネットを、また一つ作り上げることができたと考えている。



## 生理検査室の再編・拡張

増加する心疾患、手術前検査、がんにかかわる検査への対応として生理検査室の再編・拡張を行った。腹部エコー室3室を移転、2倍程度（415m<sup>2</sup>→806m<sup>2</sup>）の面積に拡張し、古くなった超音波装置を買い換えた。脳波検査室、筋電図検査室は移転、2倍程度（144m<sup>2</sup>→275m<sup>2</sup>）の面積に拡張した。呼吸機能検査機器も古くなったため新しい機器を導入した。2020年度には腹部エコー室の跡地を利用して心エコー室を拡張し、心機能検査エリアを拡大する。また脳波検査室、筋電図検査室の跡地を利用して採血室の拡張を予定している。

## 病理検査室の移転・拡張

がん診療連携拠点病院として病理検査を充実するため、病理検査室を新館に移転し拡張した。移転にともない自動免疫染色装置など古くなった機器の更新も行っている。新しい病理検査室では給排気設備を充実させ、揮発ホルマリンへの曝露対策を徹底している。また新たに標本室も設置した。病理検査室の跡地利用として、2020年度以降に輸血センターを新設、手術患者の家族待合室を新設、ME庫を増設し、増加する手術件数に対応することを予定している。

## ME室の移転・拡張

2020年度以降に拡大する病院の機能を支えるために地下電気室を拡張することになっている。このためME室を新館移転することにした。旧病理検査室にME庫を増設することとあわせて、より血管造影室や手術室と近いところに配し、ME機能をより円滑に診療に活かせるよう配慮した。

## 当直室、ボランティア室など

患者の療養環境への配慮、業務効率の向上、職員の福利厚生向上など目的に以下の施設について新館に設置した。

・当直室	13室増設
・ボランティア室	新設
・集団栄養指導室	新設
・家族宿泊室	移設
・霊安室	増設（N病棟用）
・公用車駐車場	移設・拡張
・コンビニエンスストア（ファミリーマート） 地下売店を移設、コンビニエンスストア化	
・理髪室	移転
・救急外来診察室	1室増設
・陽子線センターへの渡り廊下	新設

# 沿革 2014年度～2018年度

2014年

(H26)

- 4月 一般財団法人へ移行
- 4月 がん陽子線治療センター 着工
- 5月 フィットネス&スパ カルヴァータ開設
- 7月 60周年記念式典
- 9月 広島豪雨災害への義援金
- 10月 ステントグラフトシステム導入・常勤専門医着任
- 11月 エネルギー棟 着工



フィットネス&スパ カルヴァータ

2015年

(H27)

- 1月 市民公開講座  
「もっと知ろうピロリ菌 守ろう胃の健康」
- 2月 市民公開講座  
「切らずに治すがん陽子線治療」
- 1月 ガンマカメラ 更新
- 3月 脳死後臓器提供 (2例目)
- 3月 記念病院 療養看護基準 25:1 から 20:1 へ
- 4月 自治医科大学卒の研修医  
受け入れ開始 (新医師臨床研修制度)
- 4月 リハビリテーションの休日対応 開始
- 6月 市民公開講座  
「いざという時に慌てないみんなで守ろう命と乳房」
- 8月 エネルギー棟 竣工
- 9月 がん陽子線治療センター 竣工
- 11月 クリニック 言語療法 (リハビリ) 開始
- 11月 がん陽子線治療センター  
MRI、CT装置 導入
- 11月 カテーテルアブレーションシステム 導入



市民公開講座  
「もっと知ろうピロリ菌 守ろう胃の健康」



がん陽子線治療センター 竣工



カテーテルアブレーションシステム 導入

2016年

(H28)

- 1月 陽子線外来 開設
- 3月 居宅介護支援事業所 運営休止
- 3月 放射線治療装置リニアック 更新
- 3月 英語・中国語表記看板 設置



放射線治療装置リニアック 更新

- 4月 がん陽子線治療センター 治療開始
- 4月 耳鼻科、神経内科、肝胆膵外科 常勤医師着任
- 4月 白内障 OP 再開
- 4月 DPCⅡ群取得
- 4月 総合入院体制加算2 取得
- 4月 熊本地震 DMAT派遣
- 5月 熊本地震への義援金
- 6月 市民公開講座 岡山市さんたホール  
「切らずに治すがん陽子線治療」
- 6月 クリニック眼科 中央病院に集約
- 8月 急性期看護補助加算 施設基準取得
- 9月 看護職員夜間配置加算 施設基準取得
- 10月 市民公開講座「肝がん撲滅を目指して日々進歩する肝臓病の診断と治療」
- 10月 倉吉地震被災者受入れ
- 11月 マンモグラフィー装置 更新



がん陽子線治療センター 治療開始



熊本地震 DMAT派遣

2017年

(H29)

- 1月 認知症ケア加算 施設基準取得
- 3月 2号館 解体工事
- 3月 新病棟（N館） 着工
- 3月 クリニック リハビリ部門を記念病院へ集約統合  
施設基準のランクUpおよび新規獲得
  - ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
  - ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
  - ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ） ※新規
- 4月 外国人向けホームページ開設（英語・中国語）
- 4月 国際医療支援センター（IMSC） 開設
- 4月 乳腺外科、総合内科・感染症科 標榜
- 4月 かかりつけ医連携「ゆいカード」運用開始
- 5月 白内障手術 日帰り手術開始
- 7月 学校法人大阪滋慶学園、美作市  
地域医療連携に関する協定書締結



かかりつけ医連携「ゆいカード」運用開始



学校法人大阪滋慶学園、美作市、地域医療連携に関する協定書締結

- 6月 J M I P (外国人患者受入れ医療機関認証制度) 認証取得
- 6月 記念病院 X線 TV撮影装置 更新
- 7月 記念病院・クリニック 全館 LED化
- 8月 記念病院 CT装置 更新
- 10月 病院機能評価 認定継続
- 10月 学校法人美作学園と包括連携協定の締結
- 10月 給食の運営形態変更
- 10月 Cryo アブレーション開始 (不整脈治療)
- 10月 気管支腔内超音波断層法 (EBUS) 開始 (肺がん診断)
- 10月 J I H (ジャパン インターナショナル ホスピタルズ) 推奨指定
- 11月 一般撮影装置 更新
- 12月 記念病院 大腸内視鏡 開始

(左) J M I P 認証取得※外国人患者受入れ医療機関認証制度



(右) 病院機能評価 認定継続



J I H (ジャパン インターナショナル ホスピタルズ) 推奨指定

2018年

(H30)

- 2月 新病棟 (N館) 竣工
- 2月 日本医療マネジメント学会岡山県支部学術集会 津山中央病院にて開催
- 2月 整形外科 完全予約制 開始
- 2月 記念病院 敷地内禁煙
- 4月 新病棟 (N館) 運用開始  
(SICU 4床、一般病床 141床、結核病床 10床、感染病床 8床、リハビリ、医局、図書館、更衣室など)
- 4月 特定集中治療室管理料 2 (4床) 施設基準取得
- 4月 神経内科、糖尿病内科、乳腺甲状腺外科(変更) 標榜
- 4月 居宅介護支援事業所 運用再開
- 4月 紹介状のない初診・再診時選定療養費 開始
- 4月 医師 36 協定改定
- 4月 中央病院 敷地内禁煙
- 5月 陽子線治療 ラスタースキヤニング法開始
- 7月 西日本豪雨災害へDMAT派遣
- 7月 西日本豪雨災害へ義援金寄付
- 8月 N館Ⅱ期工事 着工 (手術室拡張、血管撮影室拡張、生理検査室移転、病理検査室移転等)



新病棟 (N館) 竣工



特定集中治療室管理料 2 (4床) 施設基準取得



日本医療マネジメント学会岡山県支部学術集会 津山中央病院にて開催

- 10月 看護支援システム・バイタル連携システム 導入
- 11月 自動精算機導入
- 11月 I M R T運用開始
- 10月 第1・3・5土曜日 休診



看護支援システム・バイタル連携システム  
導入

2019年

(H31)

- 3月 手術支援ロボット ダヴィンチ 運用開始
- 3月 P E T - C T装置 更新
- 3月 保育園 竣工
- 3月 手外科 標榜
- 3月 脳死後臓器提供 (3例目)
- 3月 記念病院 地域包括ケア病床8床運用開始



手術支援ロボット ダヴィンチ 運用開始



保育園 竣工

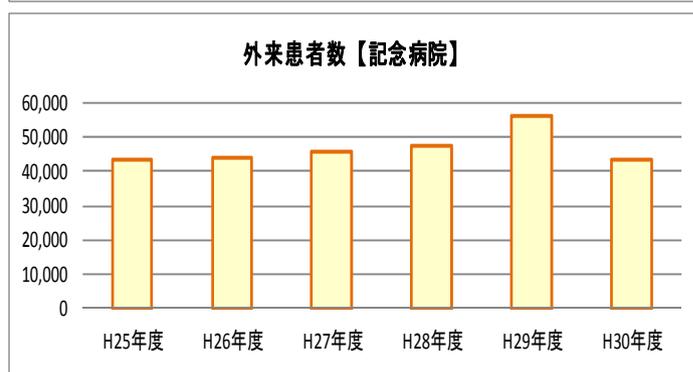
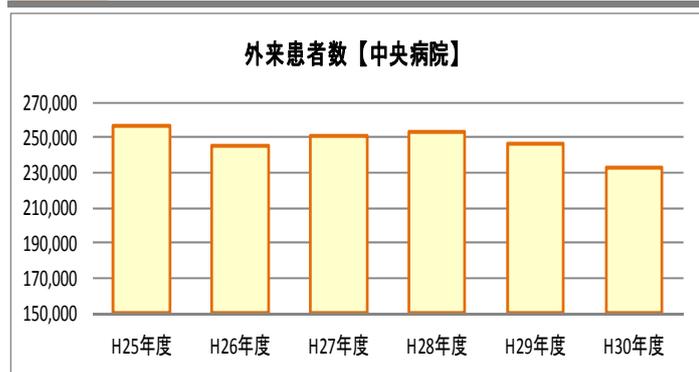
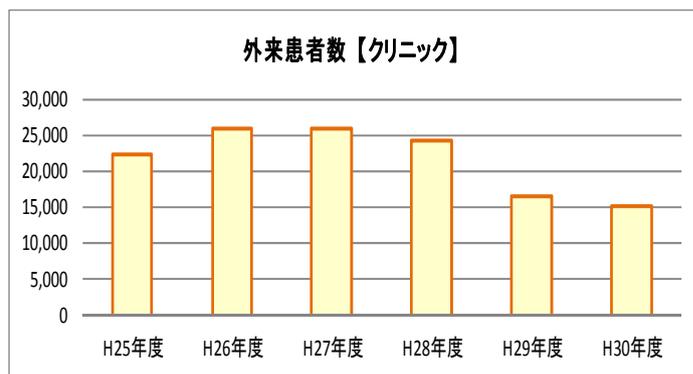


# 診療実績 病院概要



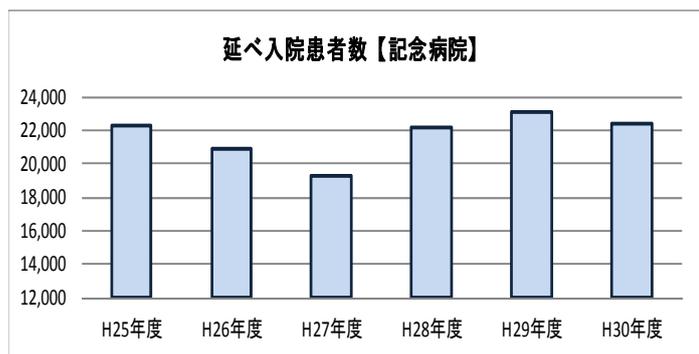
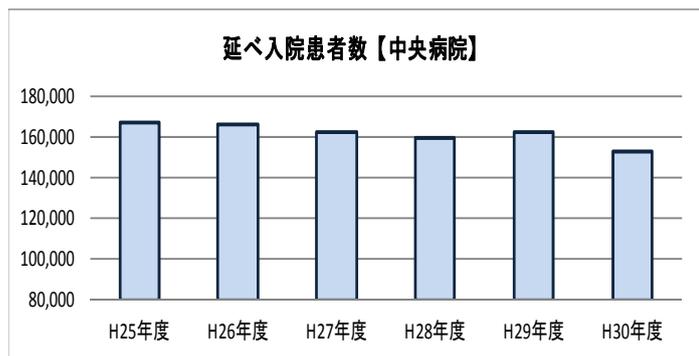
## 外来患者数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
中央病院	257,023	246,007	251,342	253,646	246,728	232,759
記念病院	43,205	43,750	45,916	47,277	56,199	43,316
クリニック	22,267	25,904	26,043	24,395	16,687	15,040



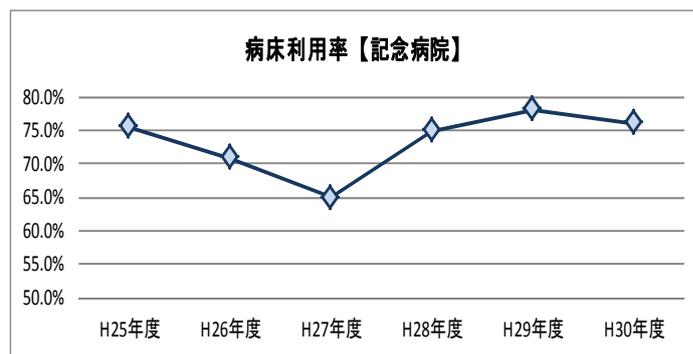
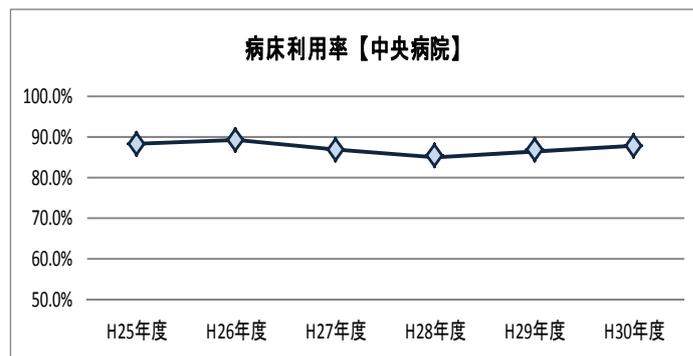
## 延べ入院患者数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
中央病院	167,181	165,840	162,037	159,013	162,458	153,195
記念病院	22,318	20,967	19,262	22,157	23,088	22,472



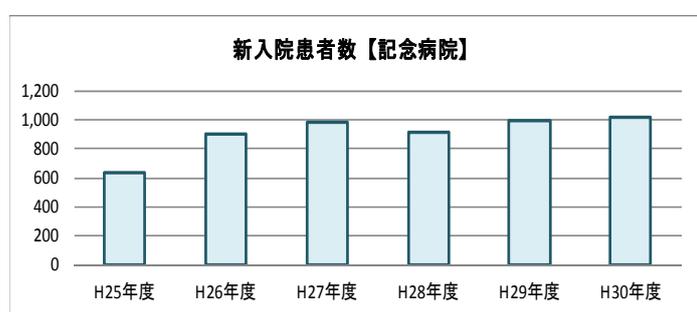
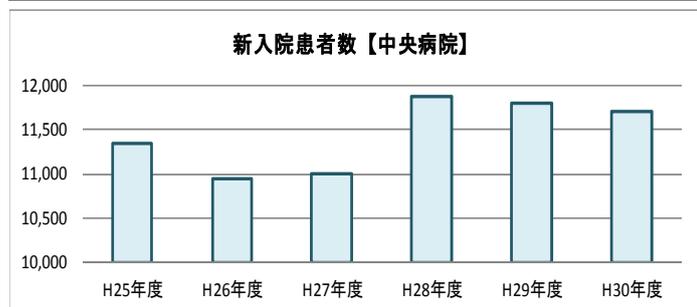
## 病床利用率

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
中央病院	88.2%	89.1%	86.8%	85.0%	86.6%	87.6%
記念病院	75.5%	71.0%	65.0%	75.0%	78.1%	76.1%



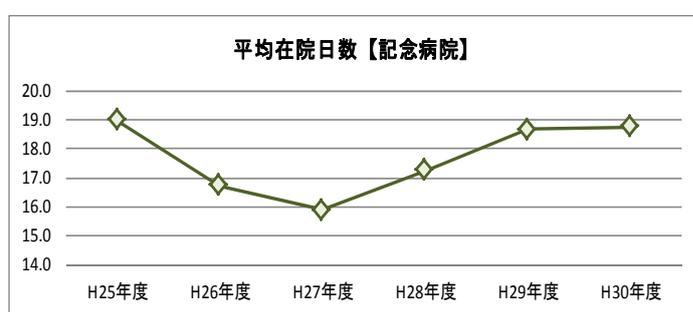
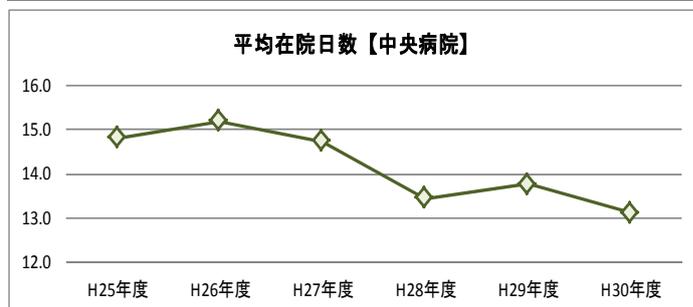
## 新規入院患者数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
中央病院	11,344	10,939	10,992	11,866	11,803	11,705
記念病院	640	905	987	920	1,001	1,020



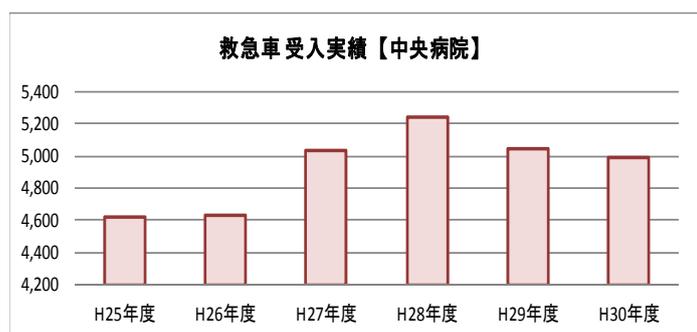
## 平均在院日数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
中央病院	14.8	15.2	14.7	13.4	13.8	13.1
記念病院	19.0	16.8	15.9	17.3	18.7	18.8



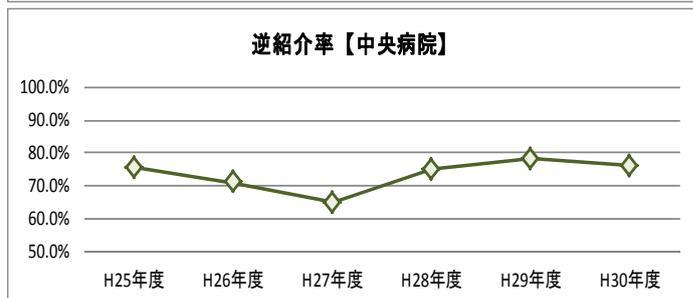
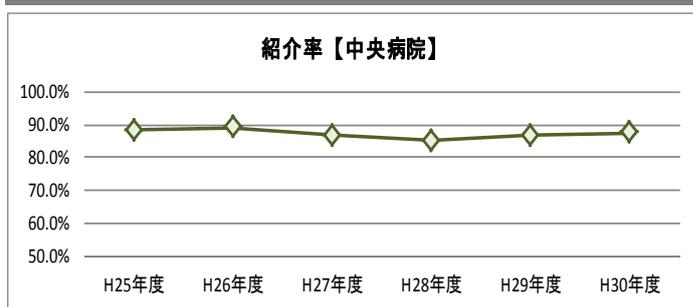
## 救命救急センター実績

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
外来	22,318	19,634	19,723	19,043	18,485	16,018
入院	4,473	4,805	4,913	5,328	5,209	5,492
3次救急	1,340	1,195	1,186	1,659	1,669	1,263
救急車	4,622	4,629	5,039	5,236	5,046	4,995
へり	17	15	12	16	19	16



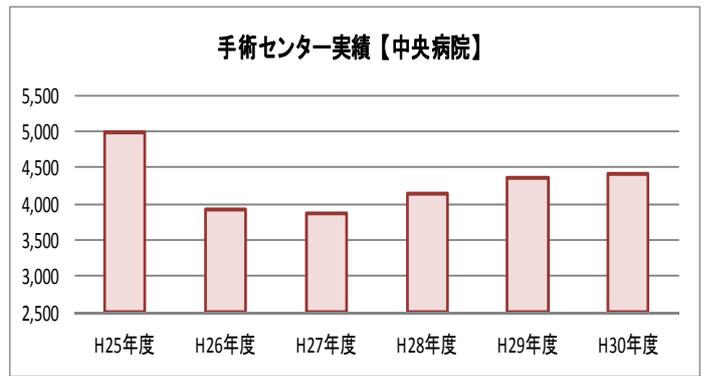
## 紹介率・逆紹介率

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
紹介率	88.2%	89.1%	86.8%	85.0%	86.6%	87.6%
逆紹介率	75.5%	71.0%	65.0%	75.0%	78.1%	76.1%



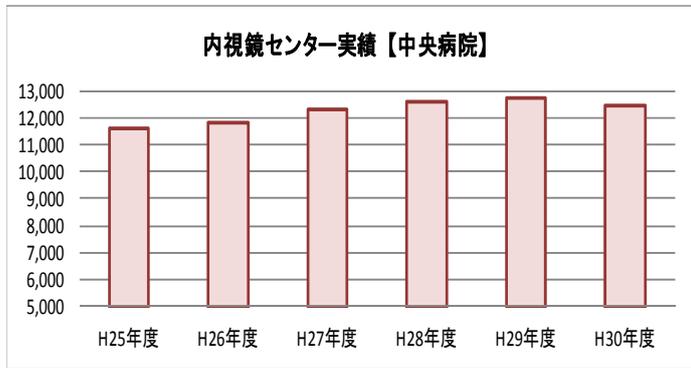
## 手術センター実績

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
中央病院	4,988	3,920	3,863	4,143	4,355	4,412



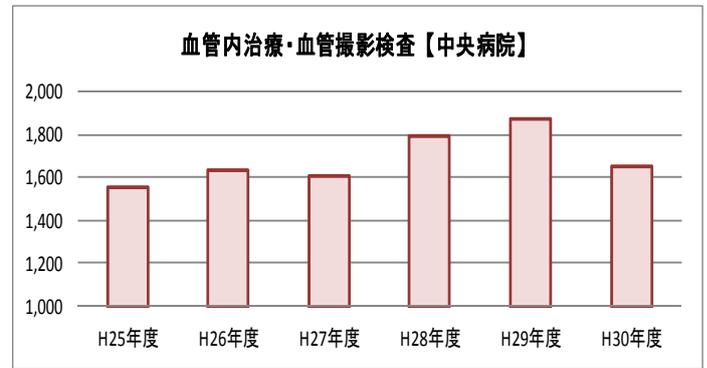
## 内視鏡センター実績

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
治療・検査	11,588	11,842	12,291	12,611	12,723	12,476



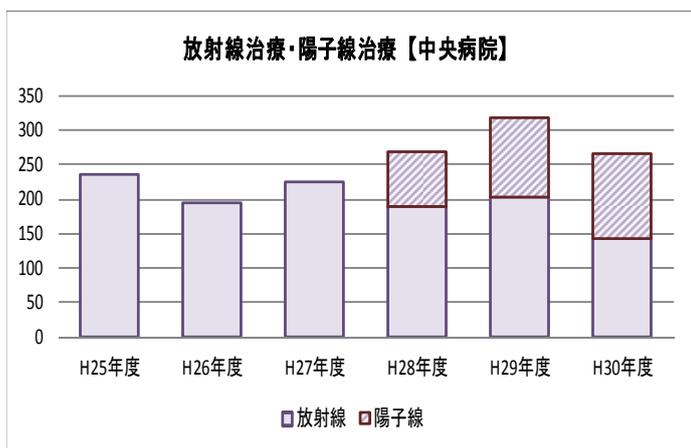
## 血管内治療・血管撮影検査

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
治療・検査	1,551	1,628	1,604	1,790	1,871	1,648



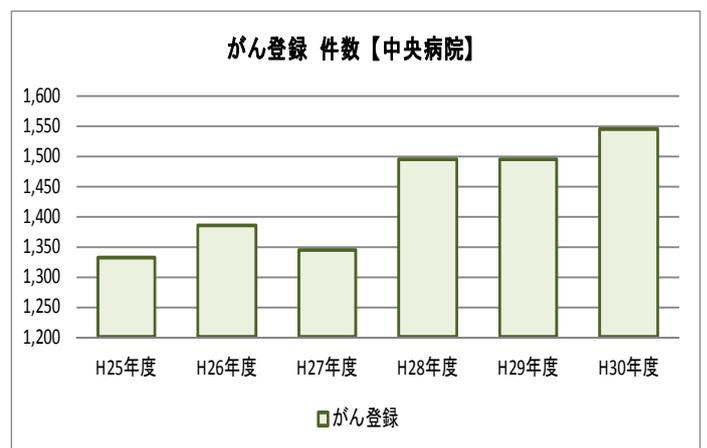
## 放射線治療実績

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
放射線	234	193	224	189	202	142
陽子線				79	114	123



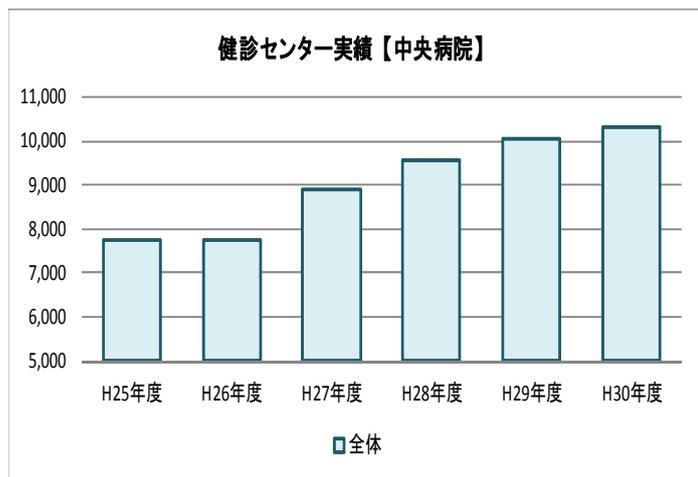
## がん登録

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
がん登録	1,332	1,385	1,346	1,496	1,494	1,545



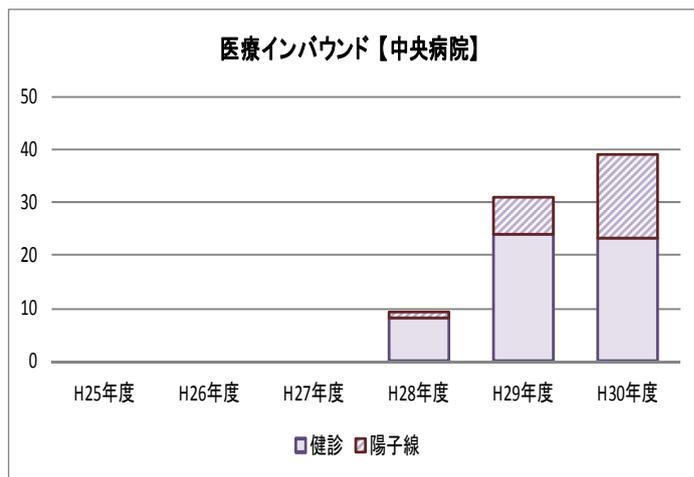
## 健診センター実績

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
全体	7,756	7,737	8,907	9,568	10,063	10,292
職除	5,189	5,637	6,640	7,210	7,598	7,815



## インバウンド・在留外国人

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
健診				8	24	23
陽子線				1	7	16
在留(延)					800	756

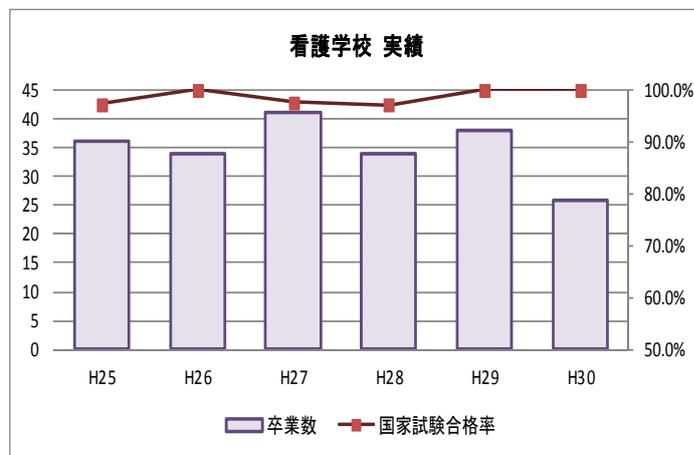


## 初期研修医

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入職者数	13	8	6	9	9	9

## 看護学校 実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
卒業数	36	34	41	34	38	26
国家試験合格率	97.2%	100.0%	97.6%	97.1%	100.0%	100.0%



# 津山中央病院 概要

## ●主な医療機器

- ・da Vinci (ダヴィンチ) -----1 台
- ・ハイブリッドOR-----1 台
- ・陽子線治療装置-----1 台
- ・MRI (3テスラ) -----1 台
- ・MRI (1.5テスラ) -----2 台
- ・マルチスライスCT (16列) -----2 台
- ・マルチスライスCT (64列) -----1 台
- ・PET / CT-----1 台
- ・バイプレーン-----2 台
- ・DSA (頭部、胸腹部用) -----1 台
- ・リニアック (IMRT対応) -----1 台
- ・デジタルマンモグラフィー-----2 台
- ・ガンマカメラ (RI) -----1 台
- ・一般撮影装置-----4 台
- ・DRX線TV-----2 台
- ・X線TV-----3 台
- ・ESWL-----1 台

## ●手術室

- ・11室 (クラス1000バイオクリーンルーム1室含む)

## ●主なシステム

- ・Eカルテ (電子カルテ)
- ・オーダーリング (外来・入院)
- ・看護支援システム等
- ・電子カルテ・バイタル連携システム (ユカリアタッチ)

## ●付属施設

- ・ヘリポート
- ・備蓄倉庫
- ・第1、第2エネルギーセンター
- ・長期入院患者院内学級 (小学生、中学生)
- ・津山慈風会記念ホール (154席)
- ・医師用マンション (25戸)
- ・看護師等独身宿舍 (36戸)
- ・研修医等独身宿舍 (54戸)
- ・院内保育園 (認可保育所)

## ●病院規模

敷地面積 84,787.92 m<sup>2</sup> / 延床面積 52,837.76 m<sup>2</sup>

## ●病床数 515床

- 一般病棟-----471床 (SICU4床、NICU機能6床含む)
- 救命救急センター-----26床 (ICU4床、HCU22床)
- 結核病床-----10床
- 感染症病床-----8床

## ●診療科目

内科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、感染症内科、糖尿病内科、神経内科、小児科、外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、救急科、病理診断科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、麻酔科、ペインクリニック内科、ペインクリニック外科

## ●併設施設

- ・津山中央病院 救命救急センター
- ・津山中央健康管理センター
- ・津山中央看護専門学校
- ・医療研修センター
- ・フィットネス&スパ CARVATA
- ・岡山大学・津山中央病院共同運用がん陽子線治療センター

## ●関連施設

- ・津山中央記念病院
- ・津山中央クリニック
- ・津山中央訪問看護ステーション
- ・津山中央居宅介護支援事業所
- ・アーバンライフ二階町 (有料老人ホーム)
- ・ナイスデイ二階町 (小規模多機能施設)

## ●第三者認証

- ・日本病院機能評価機構
- ・医療被ばく低減施設
- ・外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP)
- ・ジャパンインターナショナルホスピタルズ (JIH)

# 私たちの Vision

## 『日本に誇れる医療サービス空間の構築』





## 津山中央病院 65 年誌

令和 2 年 3 月 発行

作成 一般財団法人 津山慈風会

〒708-0841 岡山県津山市川崎 1756

TEL(0868)21-8111 (代)

FAX(0868)21-8201